

# 日帰り手術で、音のある世界を取り戻す

聞こえ（聴力）の低下や耳漏、めまい、顔面神経麻痺、耳鳴りなどは、慢性中耳炎や外耳道狭窄症、耳小骨奇形など難聴を引き起こす耳疾患の可能性がある。これらは鼓膜・鼓室形成術などの手術で治る場合が多いのだが、一般的には全身麻酔が必須。さらに2週間程度の入院も必要のため、躊躇する人が多い。

その点、榎谷将偉院長が取り入れている手術法「**耳鏡下耳内耳科手術**」は、局所麻酔下のもと日帰りで実施。数時間で聴力を取り戻すことが可能だ。この手術をおこなっている医師は、道内で榎谷院長ただ一人。これまでに同手術



衛生面に配慮した手術室



## 桂林耳鼻咽喉科・中耳サージクリニック

札幌市厚別区厚別中央2条5丁目DUO2 4階  
☎011・801・4133 <http://keirin-entsurge.com/>



従来からの7分の1に抑えたCT被曝量

法での鼓膜・鼓室形成術を400例以上経験してきた。同手術は日本屈指の耳科手術医である仙台・中耳サージ

## 榎谷将偉院長

ますや、まさより／2006年旭川医科大学医学部医学科卒業後、道内基幹病院に勤務10年北海道大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学入局、その後函館中央病院医長、仙台・中耳サージセンター勤務などを経て16年開業。



センターの湯浅涼医師が開発。榎谷院長を含め、湯浅医師に師事した全国各地の医師が、患者に「音のある世界」を取り戻すために尽力している。

従来の手術では耳の裏側を4センチほど切開して術野を確保していたが、榎谷院長は顕微鏡下のもと耳鏡とよばれる特殊器具を併用する

ことで、耳の中の深部をわずか5ミリ切開するのみ。さらに、手術時間は30分から2時間程度と従来の2分の1に短縮した。術後の痛みもほぼなく、1〜2時間ほど休憩した後には帰宅できる。

局所麻酔のメリットも大きい。聴力低下や難聴の場合、全身麻酔下だと聞こえの変化を患者に確認できず、術後に聴力の回復が思わしくなければ再手術は避けられない。その点、局所麻酔は意識がある

術後はリカバリールームで1〜2時間休憩する



ため、術中、さまざまなアプローチを試みながら、その都度聞こえの変化を確認できる。つまり、その場で最善の治療法を選択できるのだ。また、心臓や脳に疾患を抱えていても、手術を受けられる。

「聞こえの低下は、加齢による老人性難聴とは限りませんが、何らかの耳疾患を発症している場合も、長年気づかない場合もあります。加齢によって音を伝達する神経の働きが鈍ることで、初めて聞こえづらさを自覚するのです。これは老人性難聴とは別物。手術で治る可能性が高い」と語る。手術は保険適用となり、70歳以上だと1万2000円ほど。それ以下の年齢でも高額医療費制度を利用することで、最小限の負担で済む。